



第156号
令和元年6月28日
能代市教育委員会
学校教育課
創刊 昭和42年10月10日
題字 元能代市教育長 鎌田 宏

巻頭言



楽しむに如かず

淳城南小学校長

工藤 克弥

皆さんは日々の仕事にどのような意識で取り組んでいますか。

①やらなければならぬ仕事

②やりたい仕事

③やらずにはいられない仕事

もちろん、具体的な内容によって、仕事への向かい方も変わってくるのだらうと思いますが。

さて、このところ、学校に求められることは量、質ともに増大する一方です。教職という仕事が、今後さらにたいへんな厳しい仕事になることは間違いないようです。でも厳しい仕事であっても、いや、厳しいからこそ仕事を「楽しむ」心意気を持ち続けることがとても大切になるような気がします。そこは、多少のはったりでも構わ

ないじゃないですか。

中でも、子どもたちに関わり、導き、育てることに關しては、ぜひとも楽しみながら臨みたいものです。そうすれば、目の前の子どもたちも生き生きと楽しんで学ぶようになるのではないのでしょうか。さらには「学はずにはいられない」という気持ちにまで高まっていくかもしれません。

口で言うほど簡単な話ではないのでしようが、少なくとも私たちの仕事に対する意識の持ち方ひとつで、子どもたちの意欲を高め、可能性を大いに広げることができるといえる気がします。

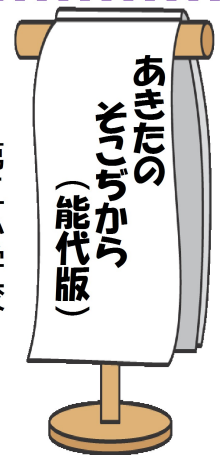
何を行うにも、楽しむことに勝るものはありません。「これを好む者はこれを楽しみむ者に如かず」との古人の教えもありますしね。



そ

相互に啓発する授業を

(話し合い、学び合い)



第五小学校

教頭

高橋

真也

「リレーションタイム」の活用を

三年生の算数では、松組担任の大高玲子先生と、TTの金谷優子先生によって学習が進められています。ベテラン二人の先生方による、キラリと光る有効な発問や助言、声かけが学習活動の随所に見られ、子どもたちの意欲や学習内容の定着につながっています。

そして今年度は特に、研究主題にも設定した「学び合える子どもの姿」につながる、少人数学習を生かした、学習リーダーを中心に進める話し合い活動を積極的に進めています。「リレーションタイム」と称して、教師のコーディネートのもと、学習リーダーが話し合いを引き出し、子どもたちが進んで考えを発表し合いながら、一人一人が主体的に学び合える場面を設けて活用しています。